

東京都立 葛西臨海公園 鳥類園 及び 葛西海浜公園の生き物調査

- 住所：東京都江戸川区臨海町六丁目 ■HP：<http://choruien2.exblog.jp/>（ブログ）
- 施設概要：葛西臨海公園内に設置された面積約27haのバードサンクチュアリ。淡水池・汽水池・樹林地・草地の他、ウォッチングセンターと呼ばれる観察施設や観察小屋・観察壁が設置されている。
- 発注元：（公財）東京都公園協会（指定管理者）
- 受託年：平成16年4月～
※平成23年度に行われた管理・運營業務に関する指名コンペ（（公財）東京都公園協会）の結果、NPO法人生態教育センターの受託が継続された。
- 職員人数：2名（土日祝日開館）

●主な業務内容

- 開館・閉館作業および来園者対応（土・日・祝日）
- ホワイトボードを用いた自然情報の提供（土・日・祝日）
- 東京都公園協会ホームページへの自然情報の提供（2回/月）
<https://www.tokyo-park.or.jp/announcement/026>
- 鳥類園ブログの管理や更新（1回/週程度）
<http://choruien2.exblog.jp/>
- 自然観察会などのイベントの企画・運営（1～数回/月）
- ボランティア活動イベントの実施（1～2回/月）
- 動植物の調査（写真による記録含む）（土・日・祝日）
- 環境管理作業（主にヨシ原の管理）

●業務実績/平成26年度

- 来館者数 25,227人（月あたり2,102人）
- 定例イベント参加者数
 - ・ガイドツアー：10回 256人（25.6人/回）
 - ・植物感察ツアー：12回 176人（14.6人/回）
 - ・ひがた・たんぼ倶楽部：19回 202人（10.6人/回）
- 特別イベント参加者数
 - ・ナイトウォッチング：6回 70人
 - ・虫聞きの会：2回 13人
 - ・コアジサシのデコイづくり：1回 49人
- 団体対応 70件 1,745人
- ブログ更新数及び訪問者数
更新数：130件 訪問者数：144,925人

●確認した生物種及び特記事項

- 確認した鳥類は、15目39科125種であった。
- 確認種のうち、環境省レッドリスト記載種は17

種、東京都版レッドリストの区部での記載種は57種であった。

- 繁殖行動を確認した水辺の鳥は7種（カイツブリ、カルガモ、オオヨシキリ、セイタカシギ、コチドリ、イソシギ）であった。そのうちの3種（カイツブリ、カルガモ、オオヨシキリ）が繁殖に成功（＝雛まで確認）した。



ガイドツアーの様子



コチドリの巣

●平成26年度の主な活動

- ①バードウォッチング・フェスティバル（春・冬）
葛西臨海公園が都内有数の野鳥の飛来地であることを多くの方に知ってもらうと同時に、公園利活用の活性化も図ることを目的に、バードウォッチング・フェスティバルを年に2回開催した。

○春のバードウォッチング・フェスティバル（平成26年5月4～5日）

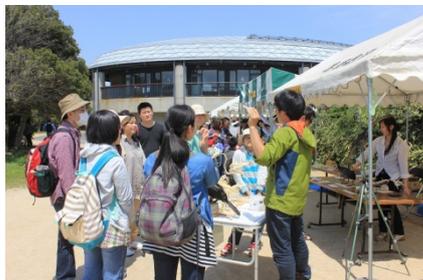
春に飛来するシギ・チドリ類の観察会を2日間で6回実施したほか、スポットガイドやコアジサシのデコイづくり、シギ・チドリの講演会などのプログラムを実施した（参加者は合計481名）。また、山本正臣氏の自然画展や、野鳥・自然保護団体による出展ブースも設置した。



出展ブース
「東邦大学野鳥の会」



出展ブースで楽しむ参加者



出展ブースでのプログラム
「骨からみる鳥のからだのつくり」

○冬のバードウォッチング・フェスティバル（平成27年2月7～8日）

鳥類園と葛西海浜公園西なぎさの2か所で冬鳥の観察会や、園内3カ所に設置したチェックポイントで野鳥に関するクイズに答える「水鳥のクイズラリー」を実施し、ウォッチングセンターでは大学生による生き物の展示を行った。



冬鳥の観察会



水鳥のクイズラリー



大学生による生き物の展示

②鳥類園 20周年記念シンポジウムの開催（平成26年10月4日）

葛西臨海公園開園25周年事業の一環として、鳥類園20周年のシンポジウムを開催した。前半の話題提供では、主に鳥類園スタッフが過去10年分の生き物の記録を紹介した。後半は公園管理者や有識者を招き、パネルディスカッション「これまでの記録を踏まえて、鳥類園の将来予想図を語る」を行った。

主にシギ・チドリ類の保全を中心に、今後の鳥類園のあり方を少し大きなスケールで話することができた。具体的には、「上の池」の浚渫や、その土砂を使って干潟を増やせるのか、樹林を減らして開放的な空間を増やし、海との行き来をやすくしてはどうか、などである。すぐには実現できないこともあるが、鳥類園が良くなる可能性を秘めていることを感じられるシンポジウムとなった。



鳥類園20周年記念シンポジウムの様子

●葛西海浜公園業務

①葛西海浜公園の生き物調査

葛西海浜公園は葛西臨海公園に隣接し、東西2つの人工なぎさと海域からなる海上公園である。平成24年度から動植物の生物相を把握する調査を実施し、平成26年度では、植物・鳥類・水生生物を調査対象とした。

また、近年繁殖を確認している絶滅危惧種のコアジサシ、シロチドリ、ヒバリの保全活動及び繁殖状況を把握する調査も行った。シロチドリは2巣で孵化し、1羽の雛が巣立った。ヒバリは5巣確認し、1羽の雛が巣立った。コアジサシは保護区内で1巣確認されたものの、抱卵期に卵が消失し、2年連続で雛が巣立つことはなかった。

②東京ガスの助成「パワーアップおうえん」

コアジサシの保全活動に関連して、東京ガスの助成を受け、これらの活動の強化を図った。

・デコイと音声による誘引

普及啓発を兼ねて一般利用者を集い、紙粘土を材料にしてデコイづくりを行った。2日間実施し、発泡スチロール製130体、紙粘土製40体を製作した。

製作したデコイの設置場所には、スピーカーでコアジサシの音声（音源の提供はネーチャーサウンド）を流した。

・普及啓発のためのポスター作成

一般利用者でも興味を持てるように、野鳥漫画家の富士鷹なすび氏のイラストを採用した。

・専門家との協力

コアジサシの保護活動を10年以上続けているNPO法人リトルターン・プロジェクトから調査方法を学ぶ研修会を2回開いたほか、当地での保護対策の助言を受けた。



抱卵するコアジサシ（2014年6月14日）



シロチドリの親子（2014年7月16日）

<p>足下に注意!!</p> <p>コアジサシやシロチドリは保護区の外にも産卵する可能性があります。保護区周辺を歩く際には足元に注意してください。もし巣を見つけた場合には葛西海浜公園西なぎさ案内所職員や鳥類園スタッフにご連絡ください。</p> <p>葛西海浜公園サービスセンター / NPO 法人生態教育センター</p> <p><small>このポスターは東京ガス環境おうえん基金の助成金を受けて作成しました。</small></p>	<p>観察や撮影する際には保護区から離れてください</p> <p>コアジサシやシロチドリは保護区の際に巣をつくることがあります。巣の近くに人がいると親鳥は巣に近づかず卵を温めることや、ヒナに餌を与えることができません。保護区から離れた場所から観察や撮影するようお願い致します。</p> <p>葛西海浜公園サービスセンター / NPO 法人生態教育センター</p> <p><small>このポスターは東京ガス環境おうえん基金の助成金を受けて作成しました。</small></p>	<p>野鳥の保護区を設置中</p> <p>赤いカラーコーンとロープで囲まれたエリアは人の立ち入りを禁止する「野鳥の保護区」です。春から初夏にかけて、保護区内では絶滅危惧種の野鳥（コアジサシ、シロチドリ、ヒバリ）が産卵し、保護区とその周辺で子育てをします。皆様にはご不便をおかけいたしますが保護区の設定にご理解・ご協力をお願いいたします。</p> <p>葛西海浜公園サービスセンター / NPO 法人生態教育センター</p> <p><small>このポスターは東京ガス環境おうえん基金の助成金を受けて作成しました。</small></p>
--	--	---

観察マナー向上を図るポスター（イラスト：富士鷹なすび氏）